学校番号	４０８

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「精選　古典Ｂ　改訂版　」　（大修館書店）						
副教材等	「クリアカラー　国語便覧」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

①過去２年間で学習した内容を確認し、その基礎の上に新たな知識を積み重ねるべく努力するという姿勢で学習に臨むこと。　②現代文と違って日常接する機会のない古典の学習では、音読の重要度が高い。各人の実力に応じた時間の音読を、毎日継続実行する習慣をつけること。　③授業に臨む前に、教材の本文をノートに書写しておくこと。授業中は、精神を集中し板書内容のみならず、自分にとっての新知識・興味を抱いた事項などをノートに書き込むこと。授業内容を定着させるためには、記憶の新しいうちに復習することが肝要である。その習慣が、定期考査において好結果をもたらすのだ。　③能力的・時間的に余裕があれば、授業で学ぶ以外の作品の読解にも、挑戦する意欲を持ってほしい。

2　学習の到達目標

①文法の学力を高めること。特に用言・助動詞・敬語の基礎を確認し、より確実にすること。
②古典独特の語法（漢文的言い回しなど）に慣れ親しみ、内容を理解できるようになること。
③頻出重要古語を含む文を、正確に口語訳できるようになること。
④文学史的観点から作品を鑑賞し、作者や時代背景にも考察を深めること。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	授業に真剣に取り組み、なおかつ予習・復習を欠かしていないか。	歴史的仮名遣いにとまどうことなく、また文節の切れ目を意識して、正確に読めているか。 自然な口語訳ができるように、意識的に努力しているか。	授業で学んだ知識を、確実に理解して定着させているか。 定着させた知識を、さらに広め発展させていく努力をしているか。
評価方法	出席状態。 授業態度の観察。 授業課題の完成度。	模範読している時の、授業態度の観察。 指名読させた時の観察。	授業中の質問に対する返答内容の点検。 定期考査の結果。 小テストの結果。
学習内容に応じて配点する。その際、定期考査は７５％、平常点は２５％の配分とする。 上記の観点に基づき、学期ごとに１００点満点で評価し、学年末に５段階で評価する。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
一学期(前半)	説話 物語	＜教材＞ 『古今著聞集』 「源義家、衣川にて安倍貞任と連歌のこと」 『源氏物語』 「桐壺」 文法:用言・助動詞の復習 語句:現代語と異なる意味を持つ語	○	◎	○	a: 説話文学に親しみ、貴族と武士の精神的土壌の違いを味わう。 b:宮廷文化の精髄である作品を読み、王朝貴族の感じ方、考え方を理解している。 ｃ:用言や助動詞が、文の構造上どういう役割を果たしているかを理解している。	a、b:授業態度の観察 c:定期考査・小テスト 全体:ノート等の授業課題の点検
一学期(後半)	物語	＜教材＞ 『源氏物語』 「若紫」 『大和物語』 「をばすて」 文法:助動詞・敬語の復習 語句:一般基本古語(前半)	○	○	◎	a: 宮廷文化の精髄である作品を読んで、王朝貴族の感じ方、考え方の現代人との違いを確認し味わう。 b:説話的な要素のある物語を読んで、現代に通じる人情を味わう。 ｃ:助動詞や敬語の用法を理解している。	a、b:授業態度の観察 c:定期考査・小テスト 全体:ノート等の授業課題の点検
二学期(前半)	漢詩 歴史物語	＜教材＞ 盛唐の詩、五編 『大鏡』 「道真左遷」 「三船の才」 文法:現代語と異なる副詞・助詞の用法 語句:一般基本古語(後半)	○	◎	○	a:日本文化に多大な影響を与えた、漢詩の構造と歴史の知識を身につけるとともに、作者の心情を味わう。 b:実在の貴族にまつわるエピソードを知り、権力争いや貴族文化の持つ意味を考える。 ｃ:文の構造上、重要な働きをする副詞や助詞について理解している。	a、b:授業態度の観察 c:定期考査・小テスト 全体:ノート等の授業課題の点検
二学期(後半)	随筆 史伝	＜教材＞ 『枕草子』 「上にさぶらふ御猫は」 「この草子、目に見え心に思ふことを」 『史記』 「鴻門の会」 「項王の最期」 文法:漢文語法 語句:重要連語	○	○	◎	a:王朝貴族の日常生活と、その場での作者の心情の推移を読み取る。 b:広大な中国大陸を舞台にした、躍動的な歴史を理解し楽しむ。 ｃ:漢文独特の言い回しを身につけ、古典の和文との共通点と相違点を理解している	a、b:授業態度の観察 c:定期考査・小テスト 全体:ノート等の授業課題の点検

三学期	評論	＜教材＞ 『古今和歌集仮名序』 「やまと歌」 『玉勝間』 「師の説になづまざること」 文法:総復習 語句:総復習	○	○	○	a、b、c:古典作品の作者が、別の古典作品や自分の師に対する思いを述べている文章を読み、日本文化の奥深さを鑑賞する。3年間の古典学習の、振り返りと総まとめをする。	a、b:授業態度の観察 c:定期考査・小テスト 全体:ノート等の授業課題の点検